

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

生駒市立俵口小学校 教諭 西田有壱

1. 単元名 平和学習 ～飛行塔の96年～

2. 単元の目標

- ・人を楽しませるために遊具として制作された飛行塔が戦時中には軍事目的で利用されたことを理解する。 (知識・技能)
- ・飛行塔の歴史を通して技術・人間・戦争・平和の関係を多面的に捉え平和のあり方について考える。 (思考・判断・表現)
- ・飛行塔の歴史について調べ、技術の使い方について考えることを通して、戦争や平和について自分との関わりを見だし、これからの自分の行動について考える。 (主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では本校の総合的な学習の時間で行う平和学習の一環として生駒山上遊園地の大型遊戯である飛行塔を取り扱う。

【飛行塔について】

生駒山上遊園地の飛行塔は、日本に現存する最古の大型アトラクションである。この飛行塔は生駒山上遊園地が開園した昭和4年(1929)土井万蔵によって製作され現在でも人気遊具として稼働しており、今年で96年を迎える。戦時中に供出されたりするなど、戦前期に制作された主な遊戯機械が現存しない中で、唯一当時の姿を残している。

【戦争と飛行塔】

橋爪紳也(2000)によると、「戦時中、生駒の山上一帯は空軍が借用した。鉄道会社が設けた本格的なグライダー滑走台上は国策の見地から大日本飛行協会の滑走場となり、他所にはない立派な格納庫も建設された。近傍には、天文台や気象観測所のほか、「航空図書館」「航空無線実験場」といった関連施設のほか、「航空道場」「青少年鍛錬生駒道場」といった「錬成施設」も開設される。この集積が山上遊園地を軍事教練の場に改めてしまう。」とある。

また「万蔵が制作した「大飛行塔」も、空を監視する防空監視所に転用された。「遊び」のために設計された機械であったが内部の設備類がすべて撤去され、純粋に「軍事」の目的に用いられたわけだ。」とある。



さらに「深める」では、日本最古の飛行塔として戦争のために残り、現代に至ることに対しての自分の考えを記述させ、交流する。この段階で、人間が遊びや楽しみのために作り出した技術を戦争に利用したという飛行塔の二面性について考えたい。また、技術の使い方を決めるのは人間であるという考えを一般化するために、飛行塔以外の技術や道具の利用についても問いたい。例えば飛行機や原子力などもその類である。それを受けて、改めて「なんとなく意見が言いづらい空気感ってどんなときがあるだろう」「だれも悪いことをしようとしていないのに平和がくずれていくのはなぜだろう」という問いについて熟議を行いたい。これらの問いは一見、飛行塔とは乖離しているように感じるが、飛行塔が戦時中に遊具ではない使われ方をしたのと同じように、戦前や非常事態の時には「なんかおかしい」と感じたことや楽しみや幸せより集団の空気感が優先されたりすることにつながる。この時間の熟議を通して、「平和のために大切なこと」を自分の考えとしてもてるように深めていきたい。

最後に「広げる」では、「深める」の段階の児童の様々な考えを生かし、自分にとっての「平和への思い」を詩で表現する。国語科「今、今、わたしは、ぼくは」の単元の学習と関連させながら、これまで自分が構築してきた平和への概念を言葉で綴り、6年生最後の参観で大人に向けて発信する。

本単元を通して、児童は「過去の出来事を知る」だけでなく、そこに生きた人々の思いや選択に共感しながら、今を生きる自分との関わりの中で平和を考える力を育みたい。また、地域の遺産である生駒山上遊園地・飛行塔を題材とすることで、身近な場所から歴史を見つめ直す。児童が「戦争のために残った飛行塔」という複雑な事実を受けとめ、それを未来への平和のメッセージに変えていくことこそ、この単元の学びの核心である。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

【連携性】

平和な社会を創っていくために、他者と積極的に意見を交わし、人々の幸せや豊かさのために開発を進めていくということ。

【責任性】

平和な社会を創っていくためには、主体的に考え、行動することが大切である。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

【批判的に考える力】

便利な技術や道具を社会状況において人間がどのように使用するかを考える。

【多面的・総合的に考える力】

一つの物事を社会・技術・戦争・平和といった複数の要素と関連付けて考える。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

【人権・文化の尊重】

同じ技術や道具でも、人間の考え方や使い方によって良き文化にも悪しき文化にもなりうる。

【世代間の公正】

「楽しみ」や「豊かさ」を将来世代にも引き継ぐ。

・達成が期待される SDGs

【16 平和と公正をすべての人に】

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①飛行塔が制作された本来の目的（娯楽・平和）と、戦時中の変容（軍事転用・防空監視所）について、資料を基に正しく理解している。</p> <p>②平和な社会を支える技術が、時代や社会状況によって異なる目的で利用される「二面性」があることを知識として身に付けている。</p>	<p>①飛行塔の歴史を通して、技術そのものの性質と、それを使う人間の選択が社会に与える影響を多面的に捉え、自分の考えを表現している。</p> <p>②飛行機や原子力、インターネットなど、身近な技術の事例と飛行塔の歴史を比較し、技術の使われ方についての共通点や課題を総合的に考察している。</p>	<p>①広島での学習や社会科での学びを振り返り、これからの自分に何ができるかを考え、身近な平和を維持するための具体的な行動（対話や継承など）を見出そうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全 12 時間）

	主な学習活動	留意点	評価
<p>見つめる ①②</p>	<p>○これまでの平和学習（広島での学習）などを振り返り、交流する。</p> <p>○戦時中、生駒市はどんな様子だったのだろう。</p> <p>○生駒山上遊園地の飛行塔が日本最古の飛行塔であり、96年間現存していることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本最古の飛行塔はなぜ96年間残り続けることができたのだろう。</p> </div>	<p>・これまでロイロノートに記入したふりかえりなどを使用する。</p>	<p>ア①ーロイロノート</p>
<p>調べる ③</p>	<p>○飛行塔の歴史について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1929年に開園した当初から今まで現役であること。 ・土井万蔵の設計で作られたこと。 ・戦時中に遊園地ではなくなり、他の遊具はなくなったが、飛行塔は防空監視所として残ったこと。 ・生駒山山頂が戦時中は軍事教練の場に 	<p>・歴史を身近に感じられるように当時の写真や資料に触れられるようにする。</p>	<p>ア②ー調べ学習、振り返り</p>

ということを構造的に理解し始めた。以下は児童の振り返りの記述である。

- ・ものは、人によって使い方が変わり、特に戦争中は元々の使い方と違う使われ方をされていたと思いました。
- ・色々と身近にある道具の使い方次第で変わってしまう物やなんとなく意見が言いづらい空気感ってどんな時があるのかなど、身近なことを平和と結んで考えて、身近のものを色々と考え直しました。
- ・必死に生きようとしているけどその生きようとしている行動が他の人にとって悪だと感じてしまうかもしれない、けれどその行動している人はいいことだと思ってその行動をしているかもしれない喧嘩とかも人の感じ方の違いが原因で起きてしまう。
- ・「人」とか「言葉」とかの意見があって、物とか目に見えるものだけじゃなくても、誰かが誰かにする行動とか言動で、言われた人、された人の気持ちが変わってしまう。って言うのがすごく心に残りました。
- ・何も考えずにいろんな事をしてるけどいじめになってるかも知れないと思った。
- ・意見を出せる空気感、自分だけ反対の時相手は別に悪いわけじゃないそんなところが人間関係難しいなと思いました。
- ・自分も喧嘩をよくするし少しノリで殴っちゃうこともある。

これらの記述から、児童が単なる「戦争＝悪」という概念を超え、「良かれと思った行動が、社会の空気や仕組みの中で平和を壊す原因になり得る」という矛盾を批判的にとらえようとしていることが分かる。「なんかおかしいな」と違和感を抱いた際に、時代の流れや「空気感」に埋没せず、一歩立ち止まって考えるための「批判的に考える力」が育まれ始めたことは大きな成果である

② 【多面的・総合的に考える力】

地域の戦争遺跡である飛行塔を過去の事実としてだけでなく、製作者の思いや時代の葛藤を含めた教材として多角的にとらえることができた。

- ・楽しんでもらうために作った飛行塔なのに戦争に使われているのは、悲しいと思いました。
- ・生駒山上遊園地の飛行塔を作った土井万蔵さんは飛行塔を戦争に使われて「悲しい」のか「仕方がない」と戦争をしている時代だから諦められる性格なのかどっちの性格なのかなって思いました。
- ・遊園地のたくさんの飛行塔が解体されましたがその解体されてしまった飛行塔を作った人たちのどんな気持ちかを想像するだけで胸がギュツとなります。
- ・楽しいって思ってもらえるように作ったはずなのにいつのまにか戦争が始まって、防空監視所になって、複雑どころじゃないな、と思いました。
- ・生駒山上遊園地は戦後1年も経たずに遊園地として復活したからその優しさを心がけるのがいいと思います。

これらの記述から、児童は飛行塔を「残って嬉しい」「軍事利用されて悲しい」といった短絡的な考えで捉えるのではなく、製作者の意志を想像したり自分の価値観と照らし合わせたりしながら葛藤する様子が見られた。戦前、戦中、戦後、現代とそれぞれの時代の姿を見つめること

で、飛行塔のあるべき姿を再認識しようとする姿勢は多面的な思考の現れであると考えている。

③ 【連携性】他者との対話による価値観の変容

本単元では5時間目と6時間目は学級という固定されたコミュニティを超えて多様な意見に触れたことが児童の思考を拡張させた。

- ・自分のクラスだけでなく他のクラスの意見も共有できて楽しかったし、特別感があって面白かったです。
- ・私自身が学んだなーと思ったことは、人それぞれの意見や価値観があって、それを踏まえて、色々な人と関わっていくということを学びました。
- ・自分は平和学習で前まで考えても出なかった意見がこの学習で見え方がすっっっごく広がりました。
- ・他の国とか他の人とか一人一人の意見が大事なんだなと、みんなの意見で、わかったし、みんなの意見をしっかり受け止めあったりするのをしっかりできたらいいなと思いました。

他学級の多様な意見に直接触れることで、自分の価値観や考えが広がる良さに気づけた児童が見られた。またその状況を戦争や平和に置き換えて考えようとする記述も見られた。「平和な社会を創るためには異なる意見を排除せず、受容しあうことが不可欠である」ということを学年間の対話を通してリアルに体験できた。他者との連携を「楽しさ」や「広がり」として肯定的に捉えられたことは成果であると考えている。以下は単元の最後に児童が作成した「平和の詩」である。

この詩に込めた思い
戦争している時にライパンなど、鉄でできた物を武器にしていたと知りました。でもライパンは、武器にするために作ったわけではなく、ハサミなどの刃物でもハサミは凶器として使われてしまっていることがあります。飛行塔も、銃や爆弾は戦うために使われたけど、その材料は武器にするために作ってはいない。作った人は誰かのために作るようにしたかったはず、誰かを傷付けたくて作ったはずかと思いましたが、人も一瞬、誰かを傷つけるために体を動かしているはずがない。誰かのために体を使いたいはず、そう思っている。平和のために、誰かを傷つけないように思っています。平和のために、誰かを傷つけないように思っています。平和のために、誰かを傷つけないように思っています。平和のために、誰かを傷つけないように思っています。

平和の詩
題名 作り方
名前
ライパンは料理に使う
ハサミは切るために使う
飛行塔は遊ぶために使う
銃も戦うために作らない
爆弾は戦うために使う
材料は戦うために作らない
人は誰も傷つけない
平和は戦って作れない
平和は誰かのために作れない
そうすればさっと作れるから

この詩に込めた思い
私は、生駒山上遊園地にある「飛行塔」が、戦時中に敵を見るための台として使われていたことを知りました。本当はみんなを楽しませる遊具なのに、戦争の道具に使われていたことを知って、とても胸が苦しかったです。かつて敵機を探していたこの空を、今は笑い声でいっぱいに行きたい。この当たり前のような平和を、私たちの手でずっと守り続けていきたい。飛行塔が、これからもずっと回り続けられる未来をつくっていきましょう。

平和の詩
題名 誓いの空
名前
戦うための「見張り台」から
みんなが笑う「遊び場」へ
鉄の塔は 戦争をくぐり抜け
平和をつかまえた
もう二度と 悲しい空は見たくない
私たちの笑い声で
この空を いっぱいにしよう

(2) 課題

① 直接体験の機会の不足

ESDの学習では、専門家から直接話を聞いたり、現地で本物を見たりする「生きた体験」が児童の心を動かす大きな鍵となる。本単元では、飛行塔の歴史に詳しい方や、土井万蔵氏の思いを知る方をお招きしたり、現地で本物をじっくり観察したりする機会を確保できなかった。こうした直接体験があれば、より地域の戦争遺跡を自分事として捉え、さらに深い探究に繋がったのではないかと考えている。

② 認知の変容から行動変容への限定

本単元を通して、児童の戦争や平和に対する概念の変容は見られたものの、それが実際の日常行動の変容として表れるまでには至らなかった。今、身の回りで起こっている「空気感」や「同

調圧力」に気づくだけでなく、そこで具体的にどのような「一歩」を踏み出すべきか、行動を促す活動は不足していた。「自分たちにも平和を壊す空気感がある。」という気付きを実際の行動として促すために継続的に働きかけていくことが必要である。

7. 参考文献

近畿日本鉄道株式会社（1990）80年のあゆみ

橋爪 紳也（2000）空間プランナーたち(第14回)飛行塔の創案者 土井万蔵 pp. 93-98

吉野万里子（2023）「100年見つめてきました。」



現在の学年終了時に目指す姿

自分の目指す姿と常に向き合ったうえで、対話を通じて想いや考えを他者へとつなぎながら、平和の創造者として、自分にできる一歩を踏み出すことができる。

道徳

「技術で障がいをなくしたい」

速く走れる義足で、「障がい」という概念を変えたい。
ひとの幸せのために、そんな技術が当たり前になっていけ

豊かな技術はやっぱり多くの人の幸せのために使うべきなんだ。

あの飛行塔を遊具として使い続けなければいけない。

身近にあるものをどう使うか、考えなければ。

自分の思いや考えは、自分の言葉で伝えなければ。

国語科

「今、わたしは、ぼくは」 (光村図書)

この1年間積み重ねてきた平和学習の中で、自分が大切にしたいと思ったこと、広島や飛行塔の学習で考えたことをまとめ、発信する。

総合的な学習の時間

「飛行塔の96年」

○主に養いたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

便利な技術や道具を社会状況において人間がどのように使用するかを考える。

多面的・総合的に考える力

飛行塔を「技術・人間・社会」の視点から見つめ、娯楽としても戦時下のためにも使用された二面性について考える。

○主に育てたい ESD の価値観

【人権・文化の尊重】

飛行塔のように同じ技術や道具でも、私たちの考え方や使い方によって良き文化にも悪しき文化にもなりうる。

【世代間の公正】

「楽しみ」や「豊かさ」を将来世代にも引き継ぐ。

ここで起こったことは忘れないし、知ったことを伝えていきたい。

戦争は遠いどこかで起きていることではなく、始まると私たちの生活・命に関わってくるんだ。

社会科「アジア・太平洋に広がる戦争」

第二次世界大戦や太平洋戦争がどのようにして起こり、どのような結果がもたらされたかについて理解する。

また、この戦争を世界の国々との関係や、日本国の動き、当時の国民の生活など様々な視点でみつめる。

総合的な学習の時間 修学旅行

「平和学習 広島」

戦争や原爆について、現地の実物や資料、ボランティアガイドの方から学ぶ。現代のボランティアガイドの方のように、学んだことを次は自分たちが伝える番であることを実感する。